

機関誌 GBRC

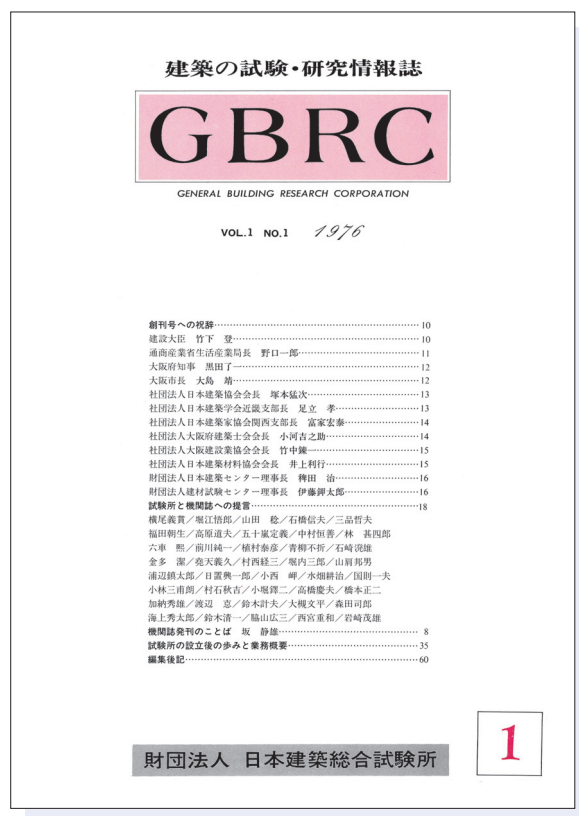
発刊第 200 号記念特集

特別企画① 機関誌 GBRC の歩み
特別企画「読者アンケート」ご報告

特別企画② 今後の建築技術の展望

建築分野において、これから大きな技術革新が期待される新しい話題より以下の7つを取り上げ、各方面の専門家にご寄稿を頂きました。

- 宇宙居住
- 建設 RX
- 3D プリンター
- コンクリートの新技術
- 建築の木造化
- 鋼材のカーボンニュートラル
- 再生可能エネルギー



1号(発刊号)

1976年1月発行

今から約50年前の1976年1月に、機関誌GBRCの第1号が発行されました。それ以来、年4回の季刊を続けています。

当時の坂静雄理事長は『機関誌発刊のことば』において、「…試験研究の結晶とも言うべき各種資料を広く公けにし建築技術の進歩、優良建築材料の開発普及にいささかなりとも貢献する…」、また、「…本試験所の業務を広く伝達する許りでなく…新しい知識、情報の普及、建築技術の開発、法令の啓発・指導に大いに寄与する」ため、当機関誌を発行すると述べています。

第1号の発刊にあたり、建設大臣・通商産業省生活産業局長・大阪府知事をはじめ計12名の方々から祝辞を、大学関係者や企業関係者など計40名の方々より「試験所と機関誌への提言」をいただきました。また、後半では「試験所の設立後の歩みと業務概要」として、法人設立から12年間の沿革と、保有設備や各試験内容などが紹介されました。

発刊号はB5版、本体は白黒(表紙のみカラー)、ご協力いただいた企業からの広告ページを含み全体で68ページでした。なお、裏表紙には「定価350円(送料別)」との記載も見られました。

数字で見る機関誌GBRC全200号の足跡

約50年

刊行を続けてきた年数

18,818ページ

総ページ数(表紙なども含む)

4,263記事

掲載記事の総数(編集後記を含む)

984件

技術記事の総数

1,294件

掲載した建築技術性能証明および
建設材料技術性能証明の数

133記事

法令・行政・規格などの解説記事数

109物件

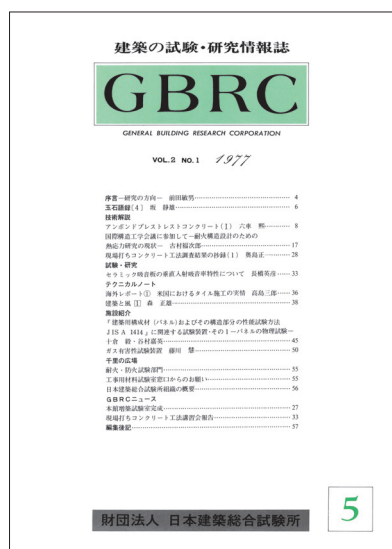
本文記事として掲載した
建築物などの総数

651物件

評価シートで掲載した建築物等、安全審査、
免震構造等、超高層建築物の総数

5,861名

延べ執筆者数(共著者を含む)



2号～80号

1976年4月発行～1995年10月発行

【特別号・特別な記事・誌面リニューアルなど】

第29号：安全審査「評価シート」の掲載を開始

第36号：創立20周年記念号（1984年10月）

第49号：第1回所内研究発表会開催の報告（1988年1月）

第50号：GBRC 発刊50号記念座談会（1988年4月）

第76号：創立30周年記念号（1994年10月）

【同号より表紙デザイン・誌面構成の変更】

技術記事の概括

創刊から30号頃まで（約8年間）は総頁数が50頁前後の号が多く、日総試での受託試験や試験方法の紹介、自主研究の報告が中心でした。外部執筆者による新材料・新技術などの紹介も幾つか見られました。

その後、1987年には市販が始まった高性能なコンクリート用化学混和剤、また1990年前後には、増えつつあった開閉式ドーム構造技術などが紹介されました。

■掲載された技術記事の例

注：末尾の（ ）内は掲載号を示す

- ・超緻密超高強度コンクリート—圧縮強度2000kgf/cm²への挑戦（40）
- ・極太径ネジフシ異形鉄筋（D57、D64）の開発研究（55）
- ・高減水性混和剤を用いたコンクリートの技術の現状（58）
- ・高性能A E分散剤の作用機構とその応用（58）
- ・これからのガラス—建築用機能性ガラスの未来（62～64、66）
- ・開閉式ドーム構造の技術開発（63）
- ・鋼管コンクリート構造の最近における発展（65）
- ・発泡性耐火塗料について（68）
- ・スカイグリーン工法—不織布を利用した緑化工法—（68）
- ・未来空間実現に向けての新素材（FRP等）の可能性（73～75）

掲載された建築物の例



丸ビル¹⁾



国立循環器病センター²⁾



大阪ドーム³⁾

【目次構成の例】 玉石語録（坂静雄理事長）／技術解説／試験・研究／随想／テクニカルノート／施設紹介／千里の広場／（第12号） 随筆（遊歩旧跡その3：萱野三平旧邸）／GBRCニュース／編集後記 （B5サイズ、本体は白黒）

【記事内容】「玉石語録」：坂静雄理事長による随想など、第2号から第51号まで計37記事

「施設紹介」：日総試の試験施設などの紹介、第2号から第56号まで計33記事

「遊歩旧跡」：近隣の史跡の紹介、第13号まで計10記事、その後「徒然の見てある記」として第65号まで掲載

【編集委員会】機関誌の編集は2001年まで「編集委員会」が行い、その後、法人の広報全般を担う「広報委員会」に移行した。

第2号～42号は正法院陽三（副所長）、第43号～第70号は十倉毅（環境系）が編集委員長であった。

その後、第71号より益尾潔（構造系）が広報委員長であった。

【主な数字】記事数＝1456記事、執筆者＝延べ1992名、技術記事数＝415件、建築物数＝49物件、評価シート＝193件

【掲載の号】1) 第4号, pp.5-16, 1976.10 2) 第7号, pp.5-14, 1977.7 3) 第77号, pp.21-30, 1995.1



81号～120号

1996年1月発行～2005年4月発行

【特別号・特別な記事・誌面リニューアルなど】

第100号：第100号記念号「21世紀に向けて」（2000年10月）

第105号：「建築技術性能証明」の掲載を開始

計2冊の増刊号（第107号・第109号、性能評価完了報告の特集号）

第108号・第110号の増刊号として発行（2002年7月、10月）

計5冊の別冊（下記、性能評価完了報告のみ掲載）

第112号、114号、116号、118号、120号の各別冊（2003年4月～2005年4月）

第118号：創立40周年記念号（2004年10月）

技術記事の概括

1995年に発生した阪神・淡路大震災を機に、建築物の免震・制震技術の発展、新たな耐震補強工法に関わる紹介記事が、多く掲載されるようになりました。

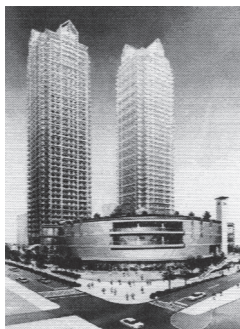
また、2000年の建築基準法の改正によりスタートした性能評価業務に伴って、大臣認定を取得した高強度・高流動コンクリートや再生骨材コンクリートの適用例などが紹介されました。

■掲載された技術記事の例

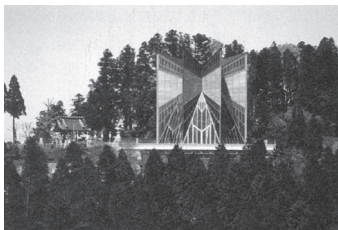
注：末尾の（）内は掲載号を示す

- ・ステンレス被覆耐火鋼管柱の開発（83）
- ・高強度・高流動コンクリートのCFT構造物への適用（87）
- ・建築物における免震及びアクティブ制震の技術（序）（104）
- ・内面が平滑な鋼管を用いたコンクリート充填鋼管杭の曲げ変形性状（105）
- ・炭素繊維シートを用いた壁付き柱の耐震補強工法の開発（106）
- ・再生骨材コンクリート『コンクル』の性能評価及び今後の課題（106）
- ・機械式定着を用いた最上階の柱梁接合部配筋構法（MZプレート構法）（111）

掲載された建築物の例



堺ツインタワー¹⁾



能勢妙見山「星嶺」²⁾



熊本県民総合運動公園
陸上競技場³⁾



NHK大阪放送会館・
大阪歴史博物館⁴⁾

【目次構成の例】新春の御挨拶（横尾義貫理事長）／序言／技術解説／試験・研究／テクニカルノート／海外レポート／随想／（第81号） 法令・行政ニュース／業務だより／海外出張報告／GBRCニュース／編集後記 （B5サイズ、本体は白黒）

【記事内容】「技術解説」：様々な建築技術や設計・施工実例の解説と報告の記事、第2号から第123号まで計182記事
「テクニカルノート」：建築技術や試験方法など幅広い分野の詳細な解説記事、第20号から第123号まで計199記事
「法令・行政ニュース」：建築関連法令や指導要綱等の改正などに伴う解説記事、第26号から第130号まで計60記事
「海外レポート」：大学教員や法人職員による海外訪問記や海外技術の報告、第20号から第99号まで計76記事

【広報委員長】第112号まで（編集委員長）：益尾潔（構造系）、第113号から：吉田正友（防耐火系）

【主な数字】記事数＝764記事、執筆者＝延べ1146名、技術記事数＝194件、建築物数＝16物件、評価シート・性能証明＝401件

【掲載の号】1) 第91号, pp.2-16, 1998.7 2) 第92号, pp.1-12, 1998.10 3) 第105号, pp.2-11, 2002.1

4) 第106号, pp.1-10, 2002.4



121号～160号

2005年7月発行～2015年4月発行

【特別号・特別な記事・誌面リニューアルなど】

第124号：誌面デザイン変更（2006年4月）

【A4版に拡大、本文も全面的にカラーに】

第148号：一般財団法人への移行（2012年4月）

第158号：創立50周年記念号（2014年10月）

技術記事の概括

既存建築物の耐震補強が進むなか、工事騒音や振動を抑制するためのFRPブロックによる耐震補強工法、2000年の建築基準法の改定により建築可能となった木造耐火建築物の技術開発、高耐久性RC造建築物の開発を目的としたステンレス鋼鉄筋の性能検討、ZEB化推進のためのSSG構法の適用検討などが紹介されました。

また、GBRCの独自事業である建築技術性能証明を取得した新たな杭工法が、数多く紹介されました。

■掲載された技術記事の例

注：末尾の（ ）内は掲載号を示す

- ・FRPブロックにより耐震補強された鉄骨フレームの構造実験（123）
- ・国産スギ材を用いた木造耐火建築物の開発（124）
- ・ZTM柱脚杭頭接合法
 - －CFTを含む鋼管柱脚と既製杭との接合法－（133）
- ・ステンレス鋼鉄筋のコンクリート中での耐食性の研究（136）
- ・間伐材を用いた木造耐震シェルター（138）
- ・場所打ち杭の杭頭半剛接合工法「スマートパイルヘッド工法®」（149）
- ・ガラスファサードにおける4辺SSG構法の適用可能性について（151）
- ・先端翼付き回転貫入鋼管杭「つばさ杭®」（152）
- ・あべのハルカスにおける防災計画（155）

掲載された建築物の例



阪神甲子園球場リニューアル¹⁾



中之島フェスティバルタワー²⁾



大阪ステーションシティ³⁾



あべのハルカス⁴⁾

【目次構成の例】随想／技術報告／試験・研究／テーマ解説／法令・規格紹介／事業報告／GBRCニュース／編集後記（第138号）（A4サイズ、全面カラー）

【記事内容】「テーマ解説」：当法人事業に関係する話題の解説など、第124号より継続中、これまでに計53記事
「法令・規格紹介」：法令規格の動向や新制度の紹介など、第134号より継続中、これまでに計20記事

【広報委員長】第140号まで：吉田正友（防耐火系）、第141号から：永山勝（材料系）

【主な数字】記事数＝957記事、執筆者＝延べ1324名、技術記事数＝182件、建築物数＝11物件、評価シート・性能証明＝515件

【掲載の号】1) 第131号, pp.2-13, 2008.1 2) 第146号, pp.1-9, 2011.10 3) 第150号, pp.1-12, 2012.10

4) 第155号, pp.2-12, 2014.1



161号～200号

2015年7月発行～2025年4月発行

【特別号・特別な記事・誌面リニューアルなど】

第178号：「建設材料技術性能証明」の掲載を開始

第188号：誌面の全面リニューアル（2006年4月）

- ・表紙デザイン刷新、目次ページで紹介、など
- ・WEBでの公開（PDFおよび電子ブック）

第196号：創立60周年記念号（2024年10月）

第200号：機関誌発刊第200号記念号（2025年4月）

技術記事の概略

東日本大震災（2011年発生）の後、吊り天井落下事故につながる特定天井落下防止工法ならびに天井制振構法が紹介されました。また、2010年には木材利用促進法が施行され、CLT建築や大規模木造建築が紹介されているほか、CO₂排出を低減する環境配慮型コンクリートなども紹介されています。さらに、近年では日総試での性能評価業務に伴って、建築物避難安全設計や建築防災計画評価などに関する記事も掲載されています。

■掲載された技術記事の例

注：末尾の（ ）内は掲載号を示す

- ・ CLTを用いた建物の現状と展望（162）
- ・ 大規模木造建築の防耐火設計（162）
- ・ 市立吹田サッカースタジアム－（163）
- ・ 天井落下防止構法（163、174）
- ・ 地震時における建物の健全性判定支援システム
－安震モニタリングSPの技術開発について－（164）
- ・ 緑化遮音壁による回折音の抑制（165）
- ・ 天井制振構法「ロータリーダンパー天井制振システム」の開発（180）
- ・ 環境配慮型コンクリートの基本性能－CELBIの開発－（191）

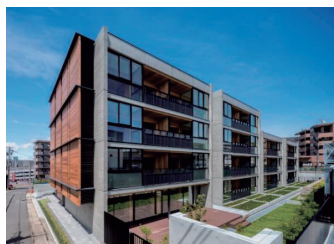
掲載された建築物の例



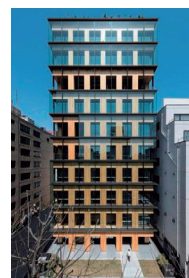
吹田サッカースタジアム¹⁾



梅田1丁目1番地計画²⁾



アネシス茶屋ヶ坂³⁾



Port Plus⁴⁾

【目次構成の例】巻頭言／GBRCニュース／特別寄稿／技術報告／試験・研究／研究速報／知っておきたい基礎シリーズ／（第191号） テーマ解説／事業報告／センターだより／業務案内／室課紹介／編集後記 （A4サイズ、全面カラー）

【記事内容】「技術報告」：主に外部執筆者による建築関連技術などの紹介、第124号よりほぼ毎号に掲載、これまでに計134記事
「試験・研究」：当法人職員が実施した試験や研究などの紹介、第2号よりほぼ毎号に掲載、これまでに計374記事
「知っておきたい基礎シリーズ」：各技術分野の基礎事項を解説、第188号より毎号掲載中、これまでに計12記事

【広報委員長】第164号まで：永山勝（材料系）、第165号～第173号：下平祐司（構造系）、第174号から：田中学（環境系）

【主な数字】記事数＝1030記事、執筆者＝延べ1342名、技術記事数＝193件、建築物数＝33物件、評価シート・性能証明＝836件

【掲載の号】1) 第163号, pp.2-13, 2016.1 2) 第166号, pp.1-8, 2016.10 3) 第184号, pp.15-26, 2021.4

4) 第192号, pp.30-41, 2023.4